

平成 27 年 網走市議会
地 方 創 生 総 合 戦 略 検 討 特 別 委 員 会 会 議 録
平成 27 年 9 月 24 日（木曜日）

○日時 平成27年 9 月 24 日 午後 1 時00分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
2. その他

○出席委員（8名）

委 員 長	平 賀 貴 幸
副 委 員 長	井 戸 達 也
委 員	金 兵 智 則
	近 藤 憲 治
	田 島 央 一
	立 崎 聡 一
	永 本 浩 子
	松 浦 敏 司

○欠席委員（1名）

委 員	栗 田 政 男
-----	---------

○委員外議員（2名）

議 長	山 田 庫 司 郎
副 議 長	佐 々 木 玲 子

○傍聴議員（4名）

小 田 部 照
川 原 田 英 世
古 都 宣 裕
渡 部 眞 美

○説明者

副 市 長	川 田 昌 弘
企画総務部長	岩 永 雅 浩
企画調整課長	高 井 秀 利

○事務局職員

事 務 局 長	鈴 木 直 人
次 長	永 倉 一 之
総 務 議 事 係	田 中 康 平

午後 1 時00分開会

○平賀貴幸委員長 お疲れさまでございます。時間になりましたので、ただいまより地方創生総合戦略検討特別委員会を開会いたします。

本日の委員会でございますが、網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略について御協議をいただきます。

事前に皆様から各会派・各委員の皆さんからいただいた御意見について理事者のほうから資料をつくらせていただきましたので、網走市まち・ひと・しごと総合戦略について説明をしていただきたいと思います。

開会の前に、栗田委員から欠席の届けが出ておりますのでお伝えします。

それでは説明のほうをお願いします。

○高井秀利企画調整課長 網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案に対する質問事項について御説明を申し上げます。

資料をごらんいただきたいと思います。

9月14日までに市議会よりいただきました、網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案に対する御質問・御意見の回答といたしまして、庁内で調整した結果を会派・委員ごとにまとめさせていただきました。

初めに、結政の会からの御質問でございますが、K P I に対する考え方等の御質問を多くいただいております。

K P I の考え方ですが、基本的には目標年度の数値が把握可能なもの、市として特に力を入れている項目、シンボルとなる項目などの総合的な判断がベースとなって K P I を設定しております。

次に、志誠会、公明クラブ、松浦委員からの御意見でございますが、戦略にはすべての想定される取り組み等を記載しておりません。

今後、政策検討会や予算編成等を経まして、事業化する際の参考とさせていただきたいため、資料に記載のとおり、今後の施策の参考とさせていただきますと記載させていただきました。

次に、今後のスケジュールですが、現在、戦略素案に対するパブリックコメントを10月7日まで実施しております。

パブリックコメント、本特別委員会、選択する未

来会議、当市と連携協定を締結している大学並びに研究機関からの御意見を踏まえまして、10月中旬には本部会議で戦略案を作成いたします。

同じ時期、10月中旬にその戦略案を本特別委員会へ御報告させていただきまして、そこでの御意見等も踏まえ所要の見直しを行った上で、同時期に選択する未来会議を開催し、10月下旬には本部会議で戦略を決定したいと考えております。

策定しました総合戦略につきましては、ホームページ等を通じて広く市民の皆様へ周知を図ってまいりたいと考えております。

説明は以上です。

○平賀貴幸委員長 それでは質疑に入りたいと思います。

○田島央一委員 資料で、市のほうからの考え方を回答いただきましたが、きょうの委員会はどのような位置づけというか、この回答を踏まえてさらに疑問点についてお尋ねしてもよろしいのか、その辺のところをお伺いしてから質疑のほうを考えたいと思うのですが。

○平賀貴幸委員長 委員長から申し上げますが、基本的には疑問点をさらに解消していただくための場だというふうに捉えていただいていいと思います。

○松浦敏司委員 以前いただいた総合戦略の素案について、例えば5ページで地域特性を活用した新エネルギーの利用や企業誘致の促進ということになっていますが、太陽光やバイオマスといった再生可能エネルギーのことが書かれています、関連産業の誘致振興を図るという中身を書いています、私はそれも一つだと思います。ですが、本来的には地元の企業の中でそういったものに取り組むというのが大事であり、それが雇用にもつながっていくものではないかと思うのですが、その辺はどのようなお考えでこのように表明しているのでしょうか。

○岩永雅浩企画総務部長 松浦委員から御指摘のあった点ですが、当市としても同様の考え方です。

再生可能エネルギーにつきましては、特徴的なものということで太陽光、バイオマスなどということにしておりますが、これまでも地熱の可能性などにも研究課題として取り組んでおります。それにつきましては市内の事業者が熱を使った事業構想を持っていたので、それを可能にする条件はどうかといったことで、環境庁や経産省にも出向き、課題の洗い出し、そしてそれが可能なかどうかというあ

たりの検討もしてまいりました。

特に地熱につきましては、網走の賦存としては温度が低いということが一つ課題です。

ですから、いわゆるフラッシュという阿蘇のほうでやられているような、蒸気そのものを使って発電するというのはなかなか難しいので、バイナリーと言われるもう一つ熱源を加え、温度を上げ、その熱や排温水を使うといったことが可能かどうかということです。

その場合についても賦存量としてどうかということになりますと、それを確認するためには数億円の経費がかかるということがわかりました。

現在、国の事業の中でそれを補助する事業がないということもありまして、市内の事業者の方とも御相談しながらもう少し様子を見ようかということでもお話をしています。今おっしゃられたように、エネルギーについてはあらゆる可能性について、目を向けたいというふうに思っていますし、それに関連する事業所についても、市内事業所も当然、外からの誘致についてもあわせて取り組んでいきたいなというふうに考えています。

○松浦敏司委員 わかりました。

報道を見ますと、やはり地熱というのは費用がかかるということと、温泉を使うわけですから、関連の業者に影響が出ないのかなど、いろいろあるというふうに聞いておりました。

その辺は、理解いたしました。

加えて同じページに、中心市街地と網走川周辺におけるにぎわいの創出ということで、道の駅のことも書いてあります。

そもそも道の駅をつくる时候にも、いかにして道の駅からお客様を中央商店街に誘導していくかというような課題になっていますが、現在どのような到達になっているのかわかりませんが、なかなかうまくいかない状況にあるのではないかと思います。すけれども、一つ課題にあるのではないかと思います、その辺いかがお考えでしょうか。

○岩永雅浩企画総務部長 総合戦略に記載していることについては、現実性が薄いのではないかとという指摘も市民会議の中でされている部分がありますが、基本的には人口減少社会に挑戦するということが基本となっています。

それを国も求めているというふうに理解しておりますので、そういう心づもりでいるということが一つです。

それから、ここに書かれている中心市街地と網走川周辺におけるにぎわいの創出につきましては、道の駅がかなりの集客力を持ち人気も非常に高い。

それをどのように中心市街地のほうに誘導し、市内の消費額の向上につなげるかということは一つ課題だと思っております。

その核としては、現在、商店街振興組合が中心となって議論を進めているラルズ跡地とその周辺ということになっていくかというふうに思っていますので、そのあたり今後5カ年でどのような政策展開ができるかということを議論していく必要があるというふうに考えております。

○金兵智則委員 資料を付けていただいておりますので、これを元に少し伺いたいと思います。

評価指数、具体的な施策に対するK P Iのところ、設定していない空白になっているところがありますが、この辺についての回答がなかったようですが、どのようになっているのでしょうか。

○岩永雅浩企画総務部長 基本的に、網走市が策定する総合戦略のK P Iは、具体的な施策に対して設定するという原則にして考えました。

多くのまちでは、具体的な取り組みについてもK P Iを設定しているというところが見受けられるのですが、その場合についてはアウトカムというよりアウトプットの数字が並んでいるというのが傾向です。

それは国として求めている内容ではないので、そこまで手数をかける必要はないだろうという判断が一つです。

その中で、具体的な施策に対して評価項目を設定するのは困難な場合については、その前の段階、講ずべき施策に関する基本的な方向性の中で包含するような形で、K P Iを設定することで整理をしています。

特に設定できない理由としまして、先ほど課長から説明がありましたが、目標年次あるいは基準値のところで数値の設定が困難だというふうに判断されたものでございます。

以前に田島委員からも御指摘ありました、結婚組数についても、当初はそれをK P Iとしたいというふうに考えておりましたが、定めるには非常に手間がかかるということがわかりました。婚姻届と住民票の突合を毎日やっていくということです。

そこがなかなか日常的な業務の中では困難ということで、別のK P Iを設定し、包含をして整理をつ

けたという状況がございます。

○金兵智則委員 具体的な施策の後ろのK P Iは、それに限らずそこで置けない場合、前の基本的な方向性のK P Iというような方向になっているという理解でいいのかなと思いますけれども、私どもの質問事項にいただいた、※1のとおりというところがかなりの数ありますが、例えば具体的な施策、強い農林水産基盤の形成のK P Iが食品の付加価値率というのはどうなのかということですが、例えばこの場合でいくと、このK P Iは地域産業の競争力を強化する取り組みに置かれているということでしょうか。

○岩永雅浩企画総務部長 ここは結政の会からも指摘がされている、量でK P Iを定めてはどうかという議論もありました。

例えば、小麦の生産量あるいは漁獲量といったものを検討しましたが、小麦の生産量をこれから耕作地が決まった中で拡大ができるのか。あるいは漁獲量についても、さらにたくさん獲るという方向感を持つのかといったことよりは、食品製造業の付加価値を上げていくということが市の大きな課題だろうということで、K P Iを量から付加価値の部分、質というところに設定をするという判断を内部でしたということです。

○金兵智則委員 全体的に※1のとおりというふうに御回答いただいた部分に関しては、このままの状況で進めていくという理解でよろしいでしょうか。

○岩永雅浩企画総務部長 基本的には、特にこのK P Iよりもこれだというものがあれば、きょう議論させていただきたいと思いますが、例えば、結政の会からの提案の中で具体的な施策で、省エネ・新エネの普及の中での住宅用のK P Iの設定はとありますが、これは省エネルギーの住宅について、基本目標5で省エネ住宅の新築件数をK P Iとして設定しているということがあり、基本目標1ではないのですが、別のところでそのようなK P Iを使っているということもございますので、そういう細かい整理はできるというふうに考えます。

○金兵智則委員 その辺は精査をしていただきながら、今後進めていくということだったと思うのですが、基本目標3で子育て世帯のK P Iに病後児保育数とありましたが、御回答のところで「実際のニーズを把握しつつ、1施設での実施を目指し検討しているもの」と回答をいただいていた。1施設で実施を目指し検討しているのはわかっており

ますが、病後児保育はあったらあったほうがいいと思いますが、使われないのには使われないに越したことはないのかなと。

病気の子どもは少ないほうがいいに決まっているので、ここの数にしてしまうのは少し疑問があるということで質問させていただいていましたが、いかがでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 病後児保育の取り扱いですが、平成31年度から1施設で1日当たり3名を上限に受け入れることを取り組みたいということをK P Iとさせていただき、その保育園の開館している日数に単純に3名を掛けるとこの数字になったということなので、1施設1日3名というのがいいか、トータル数がいいのかというのは内部で再度検討したいと思います。

○金兵智則委員 1日3名の開館日数の最高の数だと思いますが、これをクリアしないほうが市としてはいいですね、病気の子どもは少ないほうがいいに決まっていますので。

なのでこの数値の置き方は、一度検討していただいたほうがいいのかなというふうに思います。

○田島央一委員 先ほど金兵委員に対しての説明もありましたが、最初に基本目標1の1ページ目、強い農林水産基盤の形成に関するK P Iの考え方ですが、一次産業の基盤強化がここに具体的な施策としてあり、目標の数値が加工業のほうの付加価値率になるので、これは距離があるかなというところが私の印象です。

もしここに載せるのであれば、強い農林水産基盤の形成という表現を変えたほうがわかりやすいのではないかなということが一つと、もしくはここを変えないのであれば、別目標を設定するほうがいいかなと思っています。

例えば、一次産業で収入額がどれぐらいプラスになっていくのかということ載せるということも一つのやり方かなと思いますので、この辺は表現を変えたほうがいいのではないかなというのが感想です。

参考にしていただければと思います。

次に、きょうの資料の下から2番目、販路拡大に向けた支援の輸出相手国の想定はということで、カナダとオーストラリアを想定しているということですが、これは輸出相手国が二つふえるというのはこの二つを指してのことという認識でよろしかったでしょうか。

確か、大きい資料のほうだと、5カ国から7カ国

に輸出相手国がふえています。

二つ分がカナダとオーストラリアに当たるのか、確認したいと思います。

○高井秀利企画調整課長 J Aのほうで今輸出をされているのが、現状としてはアメリカ・シンガポール・台湾・香港・タイの5カ国というふうに伺っております。

それにカナダ・オーストラリアの2カ国を加えて、7カ国を目指したいということでお聞きしております。

○田島央一委員 ここの販路拡大に向けた支援の中で、想定される取り組みが長芋とその他農産物というところに具体的な取り組みが書かれていませんが、既に市長とJ Aの方々がカナダへ行き、長芋のアピールをされているので、そこは見込めるという話があるため具体的な想定される取り組みに特段書いていないというような認識でよろしかったでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 田島委員のおっしゃるとおり実際に実績があるもので、まずは長芋ということでK P Iを設定し、農政課のほうでK P Iの相談をしたときに、この数字が目標としてふさわしいのではないかなということで、その結果をいただいたものをそのままK P Iに載せております。

K P Iのほうで長芋というふうに記載をさせていただきましたので、想定される取り組みのところには特に具体的に長芋というのは入れなかったという状況であります。

その他の農産物ということでも、J Aと相談させていただき、大根等を新たに輸出を検討しているというふうなお話をいただいたので、その他ということでゼロのものを1億円というふうな目標にさせていただきました。

○田島央一委員 先般の委員会でこの辺は細かく聞かせていただきましたので承知しました。

表を見ると対になっており、目標なりK P Iがあるところに具体的な取り組みが書いてあるので、ここだけ抜けているものですから、どのようなことなのかということを確認でお話しさせていただきました。

次に、きょう配られた資料の2ページ目の下から三つ目ですが、具体的な施策、若者の就労促進のことでお伺いします。高校卒業者の市内就職率の数値ですが、現在、市内就職率も60%になっていますが、高校から聞き取り調査をしたというのは、桂陽高校と南ヶ丘高校の二つから聞いてこの数字なのでしょう

うか。

○高井秀利企画調整課長 田島委員のおっしゃるとおり、二つの高校から確認をしているということで、過去5年間の平均の数値で60%というふうに伺っております。

○田島央一委員 例えば南ヶ丘高校ですと、先日黎明会の総会に出たときに、進学しているのが9割ぐらいいて、1割ぐらいが地元就職したというような話を聞いています。桂陽高校の数値は承知していませんが、これを足して6割でしょうか。

就職希望者の、など統計の数値の取り方によってよく数字が変わっていくので。

○高井秀利企画調整課長 高校卒業後、就職を希望される方のうち6割が市内に就職をされたという数値になります。

○田島央一委員 そうするとこの表現だとわかりにくいかなと思います。

誤解を受けないように書き変えたほうがいいのかなと思います。

よく大学も就職者を水増ししようとしているのかわかりませんが、希望者の、というところが、卒業生の就職率、のようにわかりにくいものがあるので、この辺はもう少しわかりやすく書いてもいいのかなと思います。

○平賀貴幸委員長 ほかいかがですか。

○松浦敏司委員 これはあくまでも先ほど部長が言われたように目標といいますか、理解はしますが、非常に困難な問題としては、結婚・出産そして子育てをしていく上での医療。例えば、遠紋地区で言えば、遠軽も産婦人科がなくなってしまうということで、出産をするところがない。

網走でも出産する場所は厚生病院しかない状況にあるというようなことで、非常にいろいろな目標はあったとしても、現状は非常に危うい状況にあるという点では、1自治体でどうこうできるようなものではないと。

かと言って、医師を今すぐ確保できるかといったらそれもなかなか困難だということで、非常に悩ましいことだというふうに思います。

あくまでもこういった目標をやるわけですから、当然、国もそれなりの対応するにしても、現実はこの網走に医師がどんどん来るような状況にない。その辺は基本的にどのようにお考えか伺います。

○岩永雅浩企画総務部長 医療を取り巻く環境につきましては、今、松浦委員から指摘されたとおりと

いうふうに思いまして、なかなか上向きの目標を持っていけるかという厳しいなというふうに思っております。

KPIについても現状維持するという、見方によっては消極的ではないかというふうに言われますが、ここが現実的なところかなというふうに思っております。

また、そうは言っても医療機関の方に来ていただくためには、働きがいのある職場も必要ですし、家族を連れて来ていただけるとすれば、教育文化の水準もある程度整えておかなければいけないということでもあります。

原課に聞くと、収入がどうしたというよりは周辺環境が問題だというふうにおっしゃる医師が多いというふうにお聞きしていますので、そこは目標5のところの持続可能な地域づくり、共生型の地域づくりなどのところでも関わっていく問題だというふうに思っています。まずは、今いる医療機関の方たちに定着をしていただいて、疲労感といいますか、精神的にも肉体的にも疲労を感じさせないバックアップも必要かなというふうに考えます。

○松浦敏司委員 先日、本州のほうから来た方と話をしましたが、網走の自然環境というのはすばらしいと。

非常に景色もいいし、湖もこんなにたくさんあるというのはそうそうないし、そして農業もあり、良い印象を持っているのです。

やはりそういった人たちが、一度網走に来てもらうということが非常に実は、イメージだけではなく、実際に網走に来てもらうということによって、網走の自然環境とか、あるいは気候というのを含めて、やっていくというのは非常に大事なのかなというふうに感じたものですから、質問させていただきました。

以上です。

○田島央一委員 きょうの資料3ページ目ですが、基本目標2のこちらの会派のほうから御提案させていただきましたが、観光入込客数が基本目標のKPIになっております。これに経済波及効果みたいなものを追加できないかということで話をいたしていただきましたが、この辺検討した結果、検討した中の経過のようなものを教えていただければと思います。

○岩永雅浩企画総務部長 おいしいまち網走のブランド化のうち、観光素材商品のブラッシュアップのところのKPIということでございます。

ここにつきましては、示されている入込客数が一つ把握できると、これに係数を掛ければ観光消費額については把握できるということで、この数値を言っております。

もう一つの見方としては経済波及効果、いわゆる直接効果、二次波及効果、三次波及効果ということとなりますと、一次産業までずっとさかのぼって数値を見出さなければいけないということがありますので、基本目標については交流人口の拡大というところが視点なので、そこの経済効果は基本目標1のところで別の数値を置いております。観光客の動向を見るのは、消費額も観光客の入込数さえ押さえておけばすぐ出る話ですので、これがふさわしいのではないかという議論の中でおさめたというわけです。

○田島央一委員 承知いたしました。

きょう配られた資料4ページ目の1番上のところですが、回答のほうをいただいた目標値は1年であるけれども、5年なのか1年なのかよくわからないというのはそれぞれ全体的な話としてあります。

きょう全部チェックしていくのはなかなか難しい部分がありますので、統一するような形で整理していくということでありますので、問題はないと思います。

次回の10月に向けたときには、1年で表記をしていく方向なのか、5年で表記していくものか、今の時点で検討状況などわかれば教えていただきたいのですが。

○高井秀利企画調整課長 田島委員おっしゃるとおり把握がしにくい、判断がつきにくい表現がありますので、ここに関しては年に何人とかというような表記の仕方を整理したいと思っております。

このK P Iにつきましては、1年間で16人を目標にする、毎年毎年16人を目標にしたいという考え方です。

○田島央一委員 承知しました。

この委員会もありますので、毎回検証していくには1年ごとのほうがいいのかというふうには考えておりますので、そのようにしていただければと思っています。

○金兵智則委員 全体的に、質問したものに関しては一度整理をしていただくということになっております。例えば、シルバー人材センター会員数となっているK P I、この就労率を見れば会員数ですので、会員が増えれば活動していなくても会員数はふえて

いくわけで、きちっとその辺一つ一つ見ていただきたいというふうに思います。

これが公表される前、どの段階になるのかわかりませんが、整理状況というものをを見せていただく機会というのはあるのでしょうか。

○平賀貴幸委員長 先ほどのスケジュールの話ですと、10月の中旬に戦略案ができ上がった後、特別委員会でも意見交換をするということなので、ここは皆さんがどう判断するかというところもあります。が、きょうのものを踏まえたもので戦略ができてからでいいとなれば、戦略ができた後にまた特別委員会を開きますが、改めてきょうのものでさらにもう少し議論が必要であれば、その前にもう一度できるだけ早い時期に開かなければならないという認識を持っていますので、今日の審査の結果次第かなというふうに委員長として思っております。

○立崎聡一委員 きょう示された案で、きょうのところは持ち帰るというわけではありませんが、今後のスケジュール感を考えるとできるだけ急いでもいいのですが、目標値を掲げているものですから、パブリックコメントも取りながら、その後にまた特別委員会というふうなお話を委員長がされたので、そのときで私は十分かなというふうに思います。

きょうのところはこの程度でよろしかったかなというふうに考えております。

○平賀貴幸委員長 立崎委員から御意見ありましたが、ほかの皆さんはいかがですか。

○永本浩子委員 私もいろいろ検討し、できるだけ提案型ということで意見も出させていただきましたので、まとめていただいた後見せていただくということでいいかと思います。

よろしく願いいたします。

○平賀貴幸委員長 ほか、みなさんもよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それではきょういただいた質問事項に対する回答といえますか説明、それについての質疑については、大体これで皆さんよろしいということで判断してよろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは今後のスケジュールですが、改めて委員長からも確認させていただきましたが、パブリックコメントが10月7日まで実施されており、それを含めてさまざまな意見を踏まえて戦略案が10月の中旬

にでき上がると。

その案を再度特別委員会に諮っていきますので、それまでにこの質問事項の中でさらに解消しなければならない点があれば、そこを含めて次回の委員会で審査をするということにしまして、きょうの審査のほうはこの程度で終了したいというふうに思います。

○平賀貴幸委員長 委員の皆さんからその他何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

理事者のほうからは。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

それではきょうの地方創生総合戦略検討特別委員会はこれにて終了いたします。

お疲れさまでした。

午後 1 時36分閉会
